

# 化粧品メーカー 美肌にあやかり商口開発

## インターフェイス

### 科学データ測定 安全性確かめる

「起業の場を秋田にしたのは大正解だった」と語るのは、4年前秋田市旭北に進出したベンチャー企業「インターフェイス」の野澤一美代表(45)。化粧品メーカーの委託で新商品を一般市民に使用してもらい、被験者の科学データを測定し安全性を確かめるモニター(クリニカル)試験が引っ張りだこ。業績は右肩上がりなのだ。

「透明感あふれる秋田の女性の肌は薄く、きめ細やか。敏感肌のテストに最適で各大手メーカーから注目されている」と野澤さん。モニターとして登録しているのは20代から65歳までの女性ら約3千人。だが、「依頼を十分にこなすため」目指す登録数は1万人という。

素肌美人ゆえ、シンプルケアの女性が多いことも好都合だったという。使用している化粧品が少なく、試験に移行しやすいのだ。

埼玉県出身、米国の試験受託機関などでキャリアを積んだ野澤さんを秋田進出へと動かしたのは、県の創業支援態勢と秋田美人の存在だった。学生時代に秋田を訪れた際に驚いた女性の美しさに、その後一緒に来県した夫も驚いた。「化粧品はイメージが大事。秋田美人の純白の肌は業界にとって大きな魅力」と語る。



インターフェイスが行っているクリニカル試験